

野口 勲氏 講演会

入場無料

「タネが危ない」

平成29年 7月 9日 (日) 午後 1時
野沢温泉スパリーナ 国際会議場

主催：健命寺『タネが危ない』講演実行委員会
後援：長野県、野沢温泉村
協賛：野沢温泉観光協会、(株)野沢温泉、野沢菜伝統野菜の会
野沢温泉村エコファーマーの会、信濃毎日新聞社、信越放送、長野放送
テレビ信州、長野朝日放送、北信濃新聞社、FM長野



野口種苗研究所代表。1944年東京都青梅市生まれ。
親子三代にわたり、在来種・固定種・全国各地の伝統野菜の種を扱う
種苗店を埼玉県飯能市で経営。店を継ぐ前は、漫画家の手塚治虫さんの
担当編集者をしてきた経歴を持つ。2008年山崎記念農業賞を受賞。
主な著書に『いのちの種を未来に』（創森社）、「タネが危ない」
（日本経済新聞出版社）、共著に「固定種野菜の種と育て方」（創森社）
などがある。



野沢菜は、宝暦年間、健命寺八世晃天園瑞大和尚が京都遊学の折り、天王寺蕪を持ち帰り栽培したところ、突然変異して野沢菜になったといわれております。野沢菜伝来以来 250 年全国的にも知られ食卓に欠かせない一品になりました。しかしながら、現在日本の農業に関しては、化学肥料や、農薬の危険性の問題と、技術革新は進んでいるとはいえ、その安全性は確かなものではありません。特に種においては、F1 種（異なる性質のタネを掛け合わせて作った雑種の一代目）が主流となり、雄性不稔という花粉のできない特殊な個体から作られその安全性も疑問視されています。今こそ伝統野菜や固定種の種を守り、伝えていくことの意義と必要性を学びたいと思います。

[まめ知識]

〈固定種・在来種〉

地域で何世代にも渡って育てられ、自家採取を繰り返す事でその土地の環境に適応するよう遺伝子的に安定していった品種。一粒一粒が多様性を持っているため生育の速度はバラバラだが、その味が好まれて昔から作り続けられてきた固定種は家庭菜園で楽しむ野菜にぴったり。

〈F1種（一代雑種、交配種）〉

異なる性質の種を人工的に掛け合わせて作った雑種の一代目。形がよくて均一、育ちが早く大量生産できるので経済効率優先の市場向き。しかし、現在世の中に流通している野菜や花の種の多くがもともと雄しべがなく花粉を作る事ができない雄性不稔（植物としての不妊）で作られたF1種であると言われている。今日問題となっているミツバチの減少や人間の不妊にも関係しているのではないかという説もある。

〈講演主旨〉

野沢菜は、宝暦年間、健命寺八世晃天園瑞大和尚が京都遊学の折り、浪速の天王寺蕪を持ち帰り地続きの畑に蒔いたところ、突然変異して野沢菜になったと伝えられています。野沢菜伝来以来250年、全国的にも知られて食卓に欠かせない一品になりました。しかしながら、現在日本の農業は化学肥料や農薬の危険性の問題と、技術革新は進んでいるとはいえその安全性は確かなものではありません。特に種子においては、F1種（異なる性質の種を掛け合わせて作った雑種の一代目）が主流となり、雄性不稔という花粉のできない特殊な個体から作られその安全性も疑問視されています。このような現状の中で、日本で唯一固定種専門の種苗店を守ってこられた固定種の第一人者、野口勲さんに講演していただきます。安心安全な国産の食べ物について考える事は、これから生きる私たちにとって必須です。この講演会が自然と調和した健やかな毎日のために役立つ機会になれば幸いです。

参考書籍：野口勲著（2011）『タネが危ない』日本経済新聞出版社

野沢温泉スパリーナ アクセス

